

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：認定 NPO 法人 環境ネットワーク埼玉

24A-41

代表者：代表理事 星野 弘志

URL : <https://www.kannet-sai.org/>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県内の SDGs 目標を達成するためには、基盤となる環境保全活動が重要である。今後環境活動を活発化するためには、環境活動を実践している関係者が一堂に会し、情報交換や相互交流及び情報発信ができる場を設定することが求められている。学生からシニアまで世代を超えた者が意見交換の場に参加することにより、連携、協働、パートナーシップの関係を作りだし、環境活動が深まることが期待できる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第3回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

〈実施時期〉令和3年12月12日（日）10:00～16:30

〈会場〉ソニックシティ+オンライン

〈参加人数〉387名（会場217名、オンライン170名）

〈主催〉第3回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会
埼玉県地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とし、企画・準備・運営を行った（共催：認定 NPO 法人環境ネットワーク埼玉）。

〈内容〉

基調講演「身近に迫る気候危機と防災」

鬼頭 昭雄氏（一般財団法人気象業務支援センター 研究推進部 研究員）

SDGs スピーチ 齊藤 勇太氏（栄東中学高等学校 高校1年生）

埼玉県地球温暖化防止活動推進員感謝状贈呈式

分科会 ① つくる責任つかう責任

② 地球と暮らしのミライを考える日

③ 再生可能エネルギーによる地域脱炭素づくり

④ 若者が創造する脱炭素な未来

⑤ 生物多様性



午前部の様子



分科会の様子

3. 活動の成果

昨年度に引き続きコロナ禍の開催だったため、実開催とオンラインを併用することで昨年以上の参加を得ることができた。特に、今回は若者を主体とした分科会を設定した。県内大学に通う大学生が多く参加し、企業や自治体との意見交換を通して SDGs や脱炭素について自分事として捉えるきっかけを創出し、SDGs 目標の達成に寄与することができた。

4. 今後に残された課題

オンライン併用で開催する方式をとったため、多くの参加者を期待したが、期待どおりにはいかなかった。その結果、広報や周知方法について課題が残された。また、実際にボランティアで動いてくれる実行委員が限定されており、幅広い年齢層や様々なセクターの実行委員の参加が望まれる。